

尾張旭市地域公共交通会議

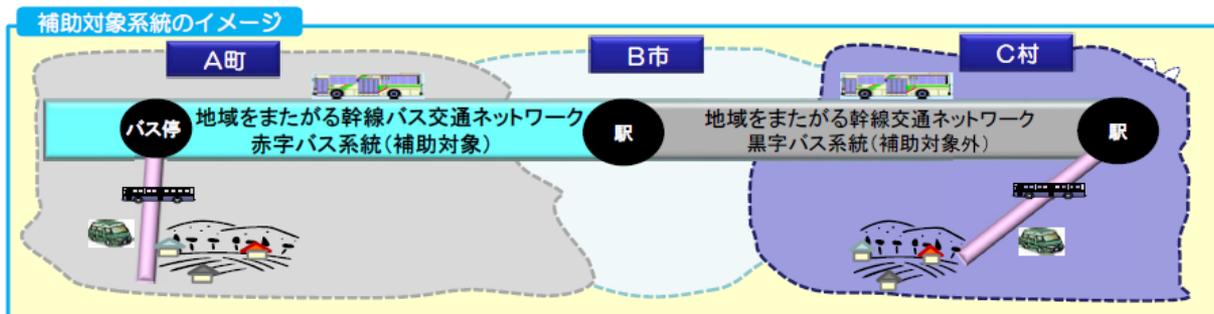
平成29年度 地域間幹線系統確保維持計画に係る事業評価概要

尾張旭市都市計画課

平成30年2月15日

① 地域間幹線系統補助

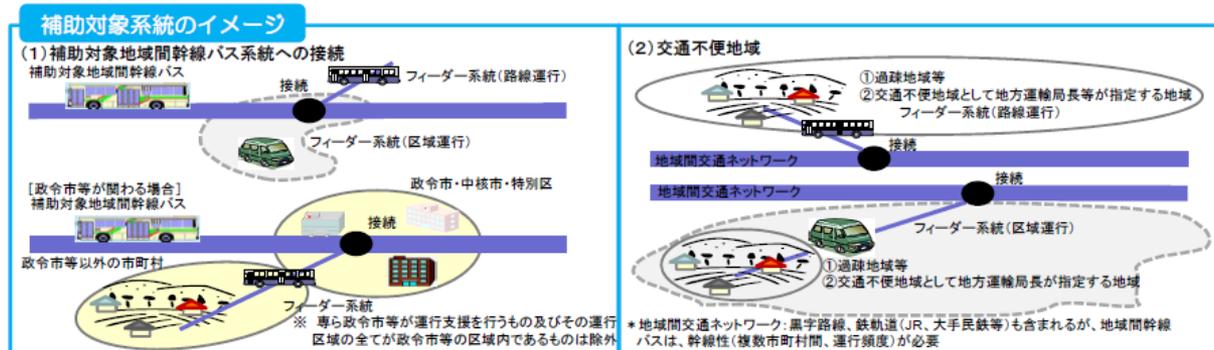
地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保・維持するため、地域間交通ネットワークを形成する地域間幹線系統の運行について支援。



地域をまたがる交通ネットワーク
(A町→B市経由C村)

② 地域内フィーダー系統補助

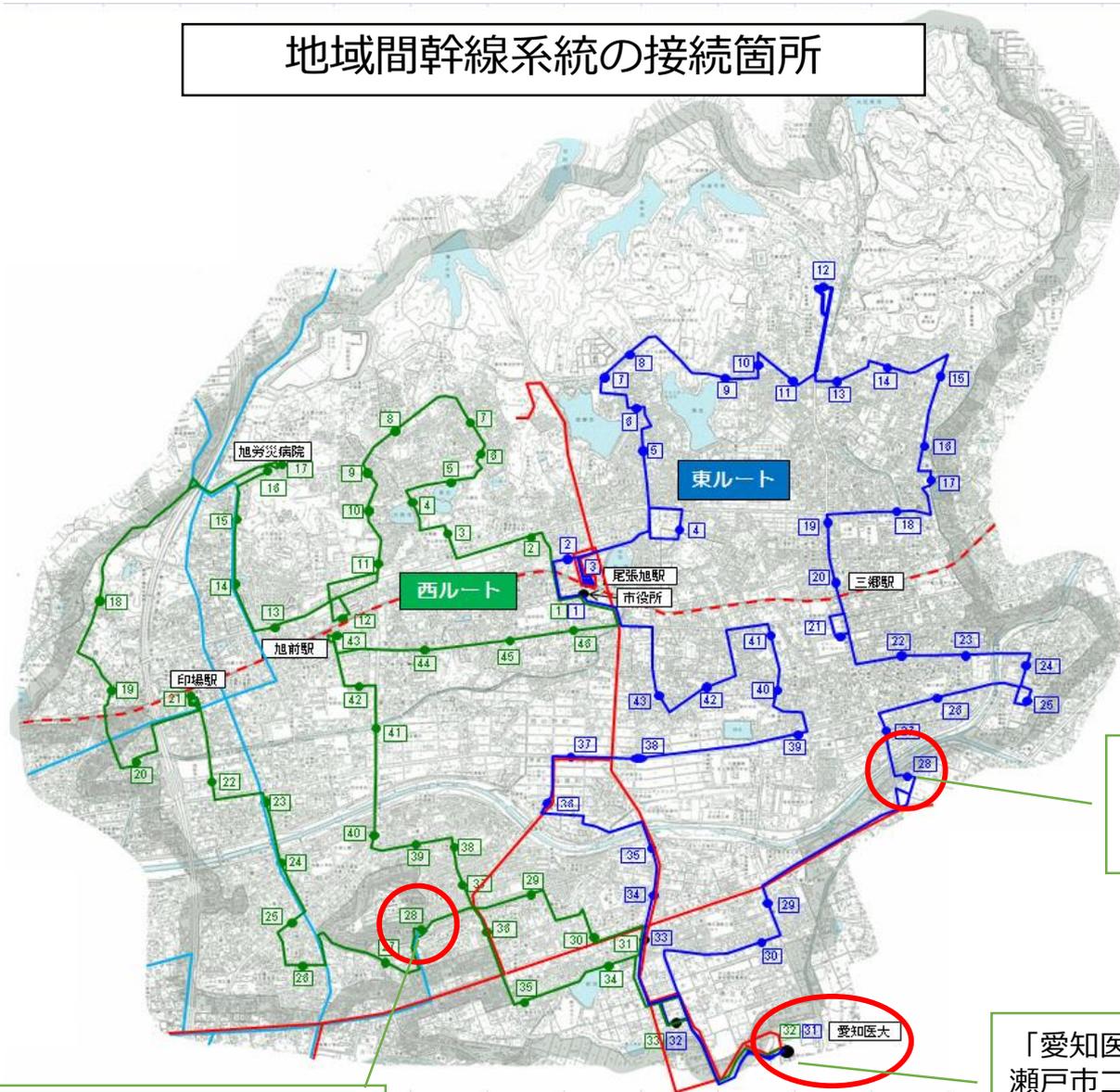
地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保・維持するため、幹線バス等の地域間交通ネットワークと密接な地域内のバス交通・デマンド交通の運行について支援。



上記①に接続し、
枝葉のように地区
を運行

本市では①の地域間幹線系統補助を受けて運行

地域間幹線系統の接続箇所



「本地住宅」
名古屋市営バスと接続

「西本地橋バロー前」
瀬戸市コミュニティバス
と接続

「愛知医大」
瀬戸市コミュニティバス、
Nバスと接続

補助内容

- 補助対象事業者
一般乗合旅客自動車運送事業者又は地域公共交通活性化再生法に基づく協議会
- 補助対象経費
予測費用(補助対象経常費用見込額)から予測収益(経常収益見込額)を控除した額



<補助対象経費算定方法>

予測費用
 (事業者のキロ当たり経常費用見込額
 × 系統毎の実車走行キロ)
 -
 予測収益
 (系統毎のキロ当たり経常収益見込額
 × 系統毎の実車走行キロ)

- 補助率
1/2
 - 主な補助要件
 - ・複数市町村にまたがる系統であること
(平成13年3月31日時点で判定)
 - ・1日当たりの計画運行回数が3回以上のもの
 - ・輸送量が15人~150人/日と見込まれること
- ※ 1日の運行回数3回(朝、昼、夕)以上であって、1回当たりの輸送量5人以上(乗用車では輸送できず、バス車両が必要と考えられる人数)
- ※ ①復興特会から移行する応急仮設住宅非経由系統のうち、東日本大震災前に輸送量要件を満たし、補助対象期間に輸送量見込が要件を満たさない系統、②熊本地震前に輸送量要件を満たし、補助対象期間に輸送量見込が要件を満たさない系統については、輸送量要件を緩和(一定期間)
- ・経常赤字が見込まれること

地域間幹線系統確保維持計画において必要な運行系統として位置付け申出

(前々年12月頃)

生活交通確保計画作成 (目標や利用促進策、課題への対応)

(前年5月頃)

運行 (前年10月~当年9月)

期間終了後、事業評価



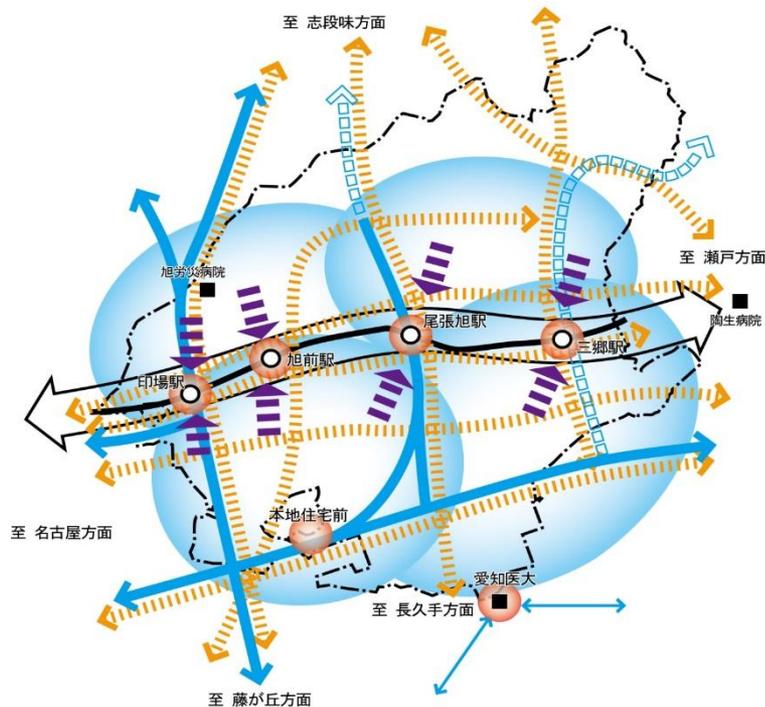
(当年12月頃)

地域の特徴

- 広域路線として名鉄瀬戸線、基幹路線として名鉄バス及び名古屋市営バス、地域路線として尾張旭市営バスが運行。
- 平成25年7月に「尾張旭市交通基本計画」を策定。
- 市営バス利用者は60歳代以上で75%を超えており、買い物や通院の利用目的が多い。

尾張旭市交通基本計画

- 計画期間：平成25年度～平成37年度
- 基本理念：誰もが利用しやすく安全かつ円滑な持続可能なまちづくりにつながる交通体系の構築
- 目標年における交通体系イメージ



凡 例	
	広域路線
	自動車・自転車ネットワーク
	駅アクセス軸（自転車・歩行者）
	基幹路線（既存路線）
	基幹路線（構想路線）
	地域路線
	交通結節点
	他市運行路線

※「基幹路線（構想路線）」については、市の要望路線として今後の個別協議により整備する路線として位置付けています。

○補助系統事業評価（尾張旭市営バス）

(1) 年間利用者数の目標設定（補助年度：前年10月～9月）

	H27 (H26.10～H27.9)	H28 (H27.10～H28.9)	H29 (H28.10～H29.9)
東ルート	81,000人	85,000人	85,000人
西ルート	—	—	85,000人

※ 西ルート：H28年4月の運行見直しにより本地住宅及び愛知医大に乗入れ。
→H29（H28年10月～）から地域間幹線系統補助の申出

※ 利用者対象地域

東ルート：尾張旭市東部地域、瀬戸市西端部地域、長久手市愛知医大地域

西ルート：尾張旭市西部地域、名古屋市守山区本地が丘地域、長久手市愛知医大地域

(2) 目標設定の考え方

生活交通確保計画策定時期（例年：前年5月頃）に目標設定

→H27：H25.4～H26.3の実績（81,738人）を元に設定

H28：H26.4～H27.3の実績（77,104人）を踏まえつつ、H28.4からの運行内容変更により、運行回数が増加することから10%増を見込み、85,000人を目標とした。

H29：設定時期が運行見直し直後のため、H28と同数として目標設定。

○ 新たな施設への新規乗り入れ

- ・ 東ルート：森林公園や多世代交流館へ乗り入れ（平成28年4月～）
- ・ 西ルート：本地住宅転回場や愛知医大へ乗り入れ（平成28年4月～）
- ・ 両ルート：愛知医大バスロータリー（新設）への乗り入れ（平成29年4月～）

○ 遅延運行の解消

- ・ 平成29年1月にダイヤ改正

○ 利用者ニーズの把握

- ・ バス利用者へアンケート調査実施

○ 利用促進施策

- ・ 定期乗車券の導入
- ・ 尾張旭市の各種イベント（あさひ健康フェスタ、尾張旭駅前にぎわいフェスタ等）にバス事業者が参加し、市営バスのPR



○ 平成29補助年度年間利用者数

コース	目標値	実績値	達成状況
東ルート	85,000人	102,890人	達成
西ルート	85,000人	112,413人	達成

○ 目標達成状況についての考察

平成29年1月にダイヤ改正し、**遅延が大幅に減少**。

4月には**愛知医大ロータリーが供用開始**となり**利便性が向上**。

→前年度実績比較で東ルート12,874人、西ルート23,290人の大幅増。

※参考 愛知医大利用者数（延べ乗降者数）をロータリー供用開始前後の同時期で比較

供用開始前（H28.4～H28.9）12,924人

供用開始後（H29.4～H29.9）19,124人

⇒ **148%の利用者増**

事業評価から得られた課題

(1) 休日における遅延運行

平成29年1月のダイヤ改正により平日の遅延運行は大幅に減少したものの、休日においては、交通集中による遅延が発生している。（晴丘交差点、三郷駅周辺）

(2) バスロケーションシステムの検討

利用者へのアンケート調査等で、バスの運行状況を電話での問い合わせ以外で確認したい旨の要望。利用者ニーズに応えるため対応が必要。

(3) 継続的な利用促進活動の推進

あさび一号及びその他バス路線について継続的に利用促進活動を推進していく必要がある。

課題への対応方針

(1) 休日における遅延運行

現在の運行状況を見極るとともに、来年度以降調査分析を実施。結果を踏まえ、対応を検討、必要に応じてダイヤ等の改正を図り、改善を図っていく。

(2) バスロケーションシステムの検討

他事業体の事例の収集・分析を実施中。今後も情報収集を重ね、早期の導入を目指す。

(3) 継続的な利用促進活動の推進

市営バスのルートマップ内に乗換案内図を追加するなど地域公共交通全体の周知を行ってきたが、それに加え、広報誌等において公共交通に関する特集をページを掲載するなどし、公共交通全体の利用促進に努めていく。